

令和7年度 学習計画(シラバス)

教科		科目	対象学年 コース	単位数	担当者氏名	教科書 著者 発行所	使用教材・発行所
芸術		美術Ⅰ	1年	2	宮本 明日香	美術1 酒井忠康ほか・26名 光村図書	
指導の重点		・造形的な視点を豊かにするために必要な知識と、表現における創造的に表す技能。 ・表現における発想や構想と、鑑賞における見方や感じ方。 ・学習に主体的に取り組む態度や生涯にわたり美術を愛好する心情、豊かな感性。					
評価の観点		知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。				
		思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、 主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。				
		主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化を幅広く理解し、その良さや美しさを創造的に味わっている。				
学習の評価		1.授業中の取り組み姿勢で「学びに向かう主体性や人間性」を評価する。 2.作品の仕上がりにより、「思考量、判断力、表現力」や「創造的な技能」「豊かな感性」を評価する。 3.作品を鑑賞した感想などを通して「鑑賞における能力」を評価する。					
学期	月	考査	単元	学習内容		学習の目標(評価)	
1	4	中間	オリエンテーション・鑑賞	美術と生活の関わりについて、作品を通して鑑賞する。		・これまでの美術の学習を振り返り、高校の美術Ⅰのイメージを持ち、美術の学びの意味や広がりについて考える。 ・生涯にわたり、美術を愛好する心情をどのように持つのかを理解する。 ・豊かな創造活動を幅広く求めることができる。 ・作品と社会との関わりを考えることができる。	
	5		鉛筆デッサン	静物、風景、人物画について鉛筆で表現する。		・モチーフの質感を描き分け、明暗の調子を表現できる。 ・モチーフの造形的魅力を発見し、ポーズや構図を工夫して表現する。 ・近景、遠景を意識した画面構成ができる。	
	6		読書感想画	感じたことを、アクリル絵の具で表現する。		・本の内容を理解し、感じ取ったことや考えたことを発想力、想像力を最大限に使い表現することができる。 ・主題が伝わるよう構図や色彩を工夫し、追及ができる。 ・モチーフに描き込みができる。 ・アクリル絵の具の特性を生かして表現方法を工夫することができる。	
	7		読書感想画	感じたことを、アクリル絵の具で表現する。		・本の内容を理解し、感じ取ったことや考えたことを発想力、想像力を最大限に使い表現することができる。 ・主題が伝わるよう構図や色彩を工夫し、追及ができる。 ・モチーフに描き込みができる。 ・アクリル絵の具の特性を生かして表現方法を工夫することができる。	
2	9	中間	色彩構成	ポスターによるメッセージ性の表現を追求する。		・伝えたいメッセージと文字とデザインで表現できる。 ・色彩の効果について理解し表現できる。	
	10		色彩構成	ポスターによるメッセージ性の表現を追求する。		・伝えたいメッセージと文字とデザインで表現できる。 ・色彩の効果について理解し表現できる。	
	11		写真表現	テーマを決めて、組作品を撮影する。		・1つのテーマを決め、光や構図などを意識して撮影し、組作品としてシリーズとする。 ・複数枚によるメッセージ性を強めることができる。 ・他の作品からメッセージや物語をくみ取ることができる。	
	12		写真表現	テーマを決めて、組作品を撮影する。		・1つのテーマを決め、光や構図などを意識して撮影し、組作品としてシリーズとする。 ・複数枚によるメッセージ性を強めることができる。 ・他の作品からメッセージや物語をくみ取ることができる。	
3	1	学年末	油絵	静物画の制作を通して表現する。		・油彩画の材料、用具、技法について理解する。 ・油彩画の特性を生かした表現ができる。 ・ビンや陶器、果物、野菜などのモチーフの質感の違いを表現できる。 ・視点や構図を工夫して描くことができる。 ・元の作品を手本に色彩、明暗の調子、筆使いを表現できる。	
	2		油絵	静物画の制作を通して表現する。		・油彩画の材料、用具、技法について理解する。 ・油彩画の特性を生かした表現ができる。 ・ビンや陶器、果物、野菜などのモチーフの質感の違いを表現できる。 ・視点や構図を工夫して描くことができる。 ・元の作品を手本に色彩、明暗の調子、筆使いを表現できる。	
	3		鑑賞	素材に応じた作品の良さや美しさを鑑賞する。		・美術作品の良さや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深めることができる。 ・日本の美術やアジアの美術など、様々な国の作品を鑑賞し、批評し合うことにより、自然と美術とのかかわり、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて理解を深める。 ・鑑賞を通して、知的財産権や肖像権などについて配慮し、自己や他者の著作物等を尊重する態度を身につける。	